

根羽村森林組合の取り組みについて

根羽村森林組合

根羽村・根羽村の森林の概要



人口	890 人
世帯数	417 世帯
総面積	8,997 ha
森林面積	8,423 ha (93%)
人工林面積	6,157 ha (73%)
樹種	スギ (49%)、ヒノキ (41%)、他
所有形態	私有林 (37%) 村有林 (32%) 団体有林 (14%) 集落有林 (10%) 共有林 (5%) その他 (2%)

根羽村森林組合の概要

Our Mission

「根羽村の森を守り、育みつつける」

森を守るプロフェッショナルとして、
この地域で人々が暮らし続けるための
環境的・経済的土台を林業を通じて実現します。

名称	根羽村森林組合
住所	長野県下伊那郡根羽村407-10
組合員数	474 名
従業員数	29 名
事業内容	森林整備、素材生産、チップ生産 建築用材の受注販売 住宅の建設 木のおもちゃ等木製品の受注生産 J-クレジット販売 環境教育
許認可・ 資格等	SGEC FM(森林管理)認証 SGEC CoC(流通加工)認証 JAS認定工場 信州木材製品認証工場 合法木材 建設業許可 長野県SDGs推進企業

根羽村森林組合の特徴



「村内全戸が森林所有者である根羽村の森林を管理」

- 全戸が少なくとも5.5haの山を所有（村内全域の国土調査済み⇒境界が明確）
- 森林の個人所有が進み、熱心に植林 スギ、ヒノキを中心とした資源が充実
- 村長は組合長を兼務し、全村の総意を汲んで林業立村の取組みを推進



「注文材を工務店に邸別で直接販売」

- 村で廃業する製材工場を買い取り、森林組合に運営を任せる
- 山と工場の密な連携により、工務店や設計士からの様々な注文に対応
- JAS認証を取得（人工乾燥、目視等級）



「上下流連携」

- 愛知県三河湾に流れる「矢作川」の源流地
- 下流域団体が根羽村の森林を所有（土地改良区1914年、愛知県安城市1991年）
- 下流域の市民向けに環境教育イベント等開催（コロナ前で約50回/年）

森林づくりについて



根羽村のほぼ全域でSGEC森林認証を取得しています。

根羽村SFM森林認証協議会がFM(森林管理)認証を、根羽村森林組合がCoC(流通加工)認証を取得しており、適切に管理された森林から伐採された木材が、適切に加工され流通し、認証材をエンドユーザーへお届けできます。



会 員	山 林 名	面 積
根羽村	村有林	2, 6 0 7 ha
安城市	市有林 (分収育林地)	4 7 ha
明治用水土地改良区	区所有林	4 3 0 ha
長野県林業公社	公社造林	3 6 5 ha
長野県南信州地域振興局	県行造林	1 1 ha
根羽村森林組合 (管理者)	森林組合所有有林 22ha 会社有林 1ha 共有林 (74共有) 368ha 個人有林 (428名) 2,680ha 社寺有林 (4寺) 31ha 集落有林 (18組) 732ha	3, 8 3 4 ha
合 計	村内森林の 8 6 %	7, 2 9 4 ha

環境に配慮されたサステナブルな取組み



森林認証・加工流通認証取得

村内ほぼ全域の森林で、
適切な森林管理と持続可能な森林経営が
行われていると認証



生分解性オイルの使用

全ての現場で
生分解性オイルを使用。
(日間賀島での食用油回収の様子)



環境教育への取組み

累計参加者1万人に対して環境教育を実施
2019年度、根羽中学校が
SDGsまちづくりコンテスト優秀賞受賞



木材のカスケード利用推進

チップパーを導入。
伐採現場で発生する未利用材を活用。



新たな木材活用

木から布を、そしてタオルを作りました。
化学繊維は不使用、
地中に埋めると分解されます。



J-クレジット制度

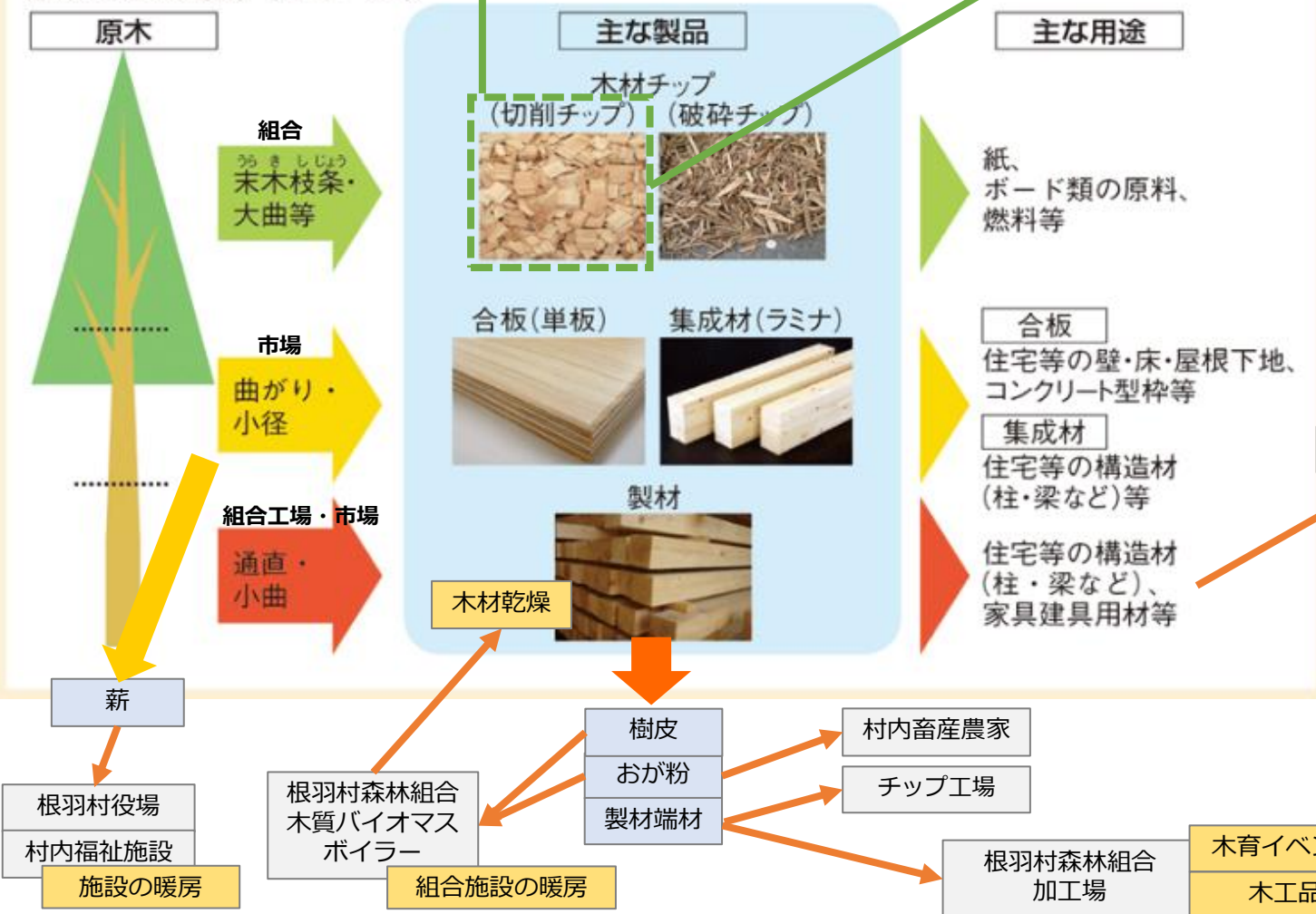
クレジット活用による資金循環

私有林を森林組合が取りまとめ販売。
収益の一部は山林所有者へ還元。

根羽村森林組合の木材利用

出典：令和3年度 森林・林業白書
を基に根羽村森林組合が作成。

原木とその用途（イメージ）



工務店ほか



根羽村の木の活用事例①



OYAKI FARM BY IROHADO

木材利用優良施設等コンクール 林野庁長官賞

地域の木材活用が進む

当初は工場併設が条件のため、建築主・施工者とも鉄骨造を念頭に置いての物件だったそうですが、長野県の豊かな森林資源を活かしたいという設計士の提案により木造建築となりました。木材については、スギやヒノキの良材が採れることや、県内で数少ないJAS製材工場である当組合に発注をいただきました。

「OYAKI FARM」は大正14年創業のおやき専門店「いろは堂」が手がけており、おやきの製造・販売以外にも、カフェやショップ、製造工程の見学、おやきづくり体験などさまざまなコンテンツを兼ねた複合施設です。



根羽村の木の活用事例②



東京2020オリンピック・パラリンピック ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～

日本の伝統・文化を感じられるよう、全国の木材を使って建設されました。

木材は、全国63の自治体が提供し、大会終了後はそれぞれ持ち帰り、レガシーとして利用する。根羽村(スギ)・川上村(カラマツ)・天龍村(ヒノキ)からも共同で木材を提供しています。

根羽村では、返却された木材を活用し、役場庁舎内にベンチやデッキを設置しています。

根羽村の木の活用事例③

木材のカスケード利用を進めています



未利用材をチップ化し、発電所へ販売



福祉施設のボイラー棟

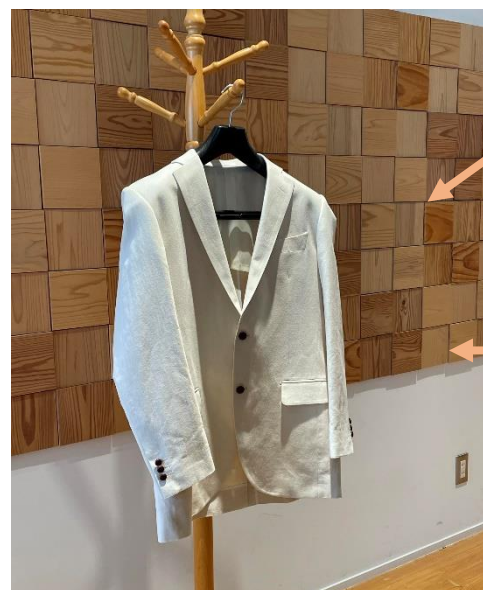


根羽村役場の薪ボイラー



工場のオガ粉等で木材乾燥・工場暖房

木の糸プロジェクトのご紹介



根羽村
木の糸

ジャケット

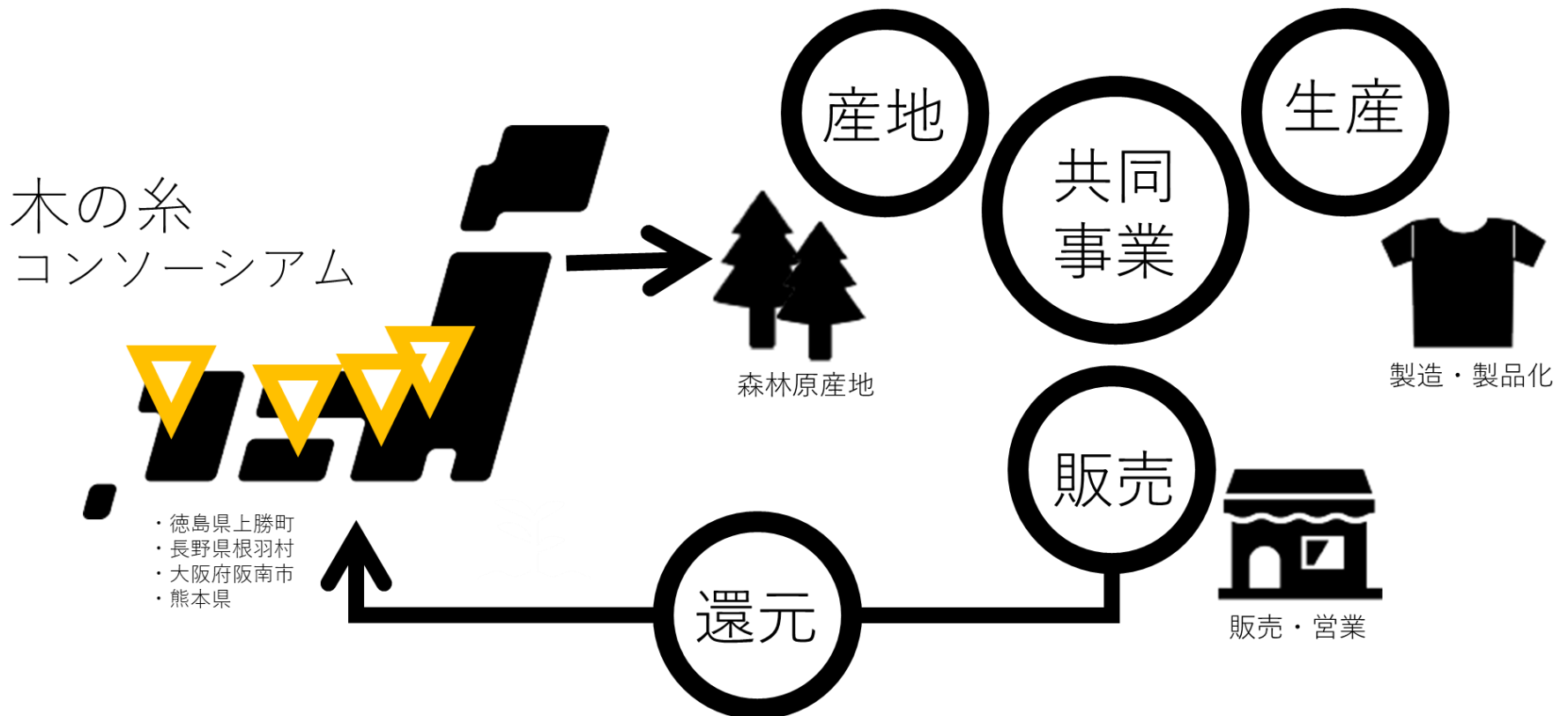
飯綱町
りんご
レザー

ボタン

木の糸プロジェクトのご紹介

共同事業体として活動を進めています

原産地、生産者、販売などサプライチェーンの協力体制



「木糸」 2025年大阪・関西万博で採用決定

PR TIMES プレスリリース・ニュースリリース配信サービスのPR TIMES

Top | テクノロジー | モバイル | アプリ | エンタメ | ビューティー | ファッション | ライフスタイル | ビジネス | グルメ | スポーツ

間伐材を利用した「木糸」、2025年大阪・関西万博のスタッフ用ユニフォームに採用

木の糸コンソーシアム（共同事業体）の4社がサプライヤーとして、国産木材（間伐材）を原料とした、天然繊維「木糸」を素材に、2025年大阪・関西万博のスタッフ用ユニフォームを提供することになりました。

根羽村森林組合 2023年11月20日 12時30分



木の糸コンソーシアムは、株式会社和紙の布、株式会社いりどり、根羽村森林組合、株式会社Circulifeの4社に協力（参加）いただき、大阪・関西万博の運営参加（ユニフォーム）へサプライヤーとして協賛（参加）します。

【Webページ】 <https://kinoito.jp/>

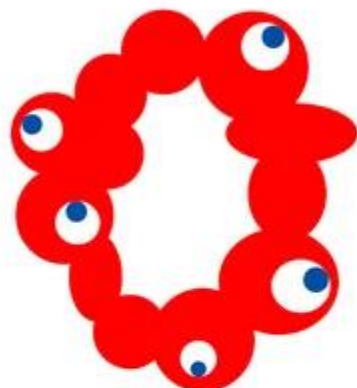
国産材（間伐材）から生成した木糸

1. 木糸とは

「木糸」とは、国内の針葉樹（スギ、ヒノキの間伐材）を原料に、木の成分からセルロースを抽出し、そこから和紙を生成し、木糸を作成したもので、天然の木材を原料として作られる繊維素材です。これは、セルロース繊維とも呼ばれます。「木糸」は、その天然の起源と環境への優れた適応性から、さまざまな用途で使用されています。

「木糸」は持続可能な原材料である木材を使用し、製造過程で化学的な処理を必要としないことから、環境に優しい素材とされています。また、木糸製品は生分解性であるため、廃棄物の問題を軽減します。

※木糸（モクイト）は、株式会社和紙の布の登録商標です（商願2012-079606）



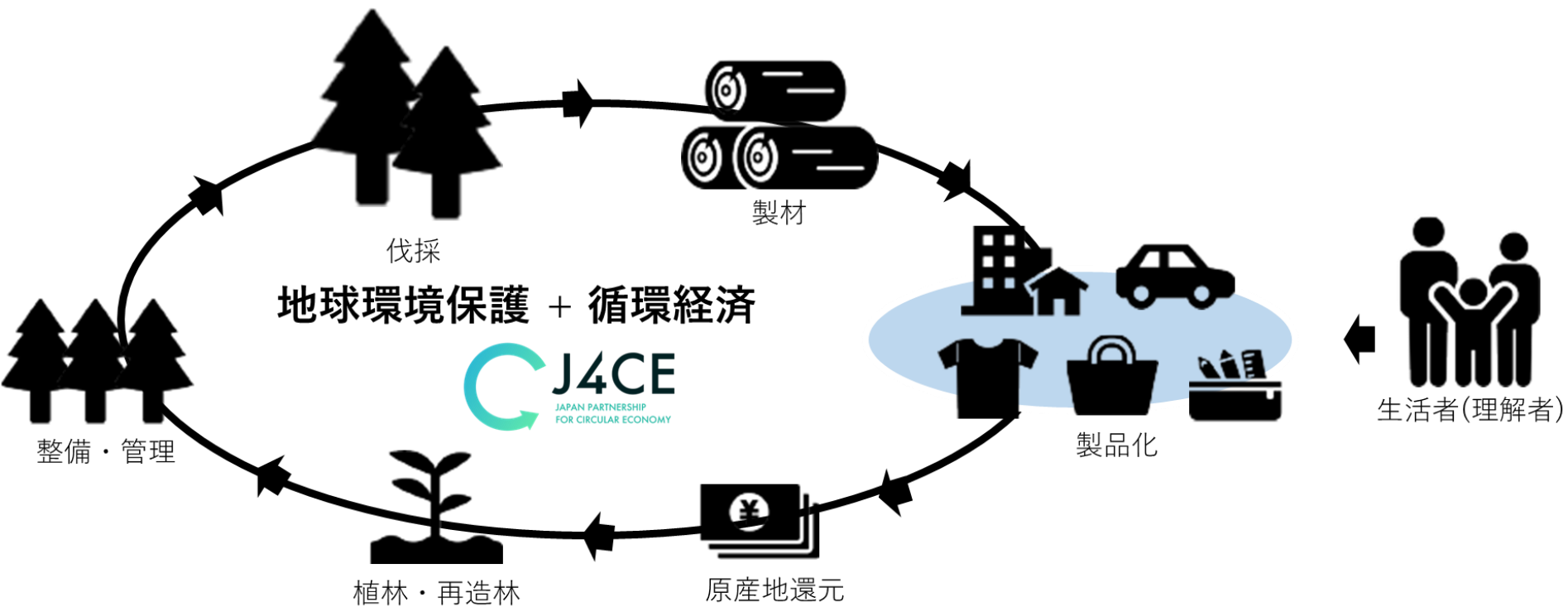
OSAKA, KANSAI, JAPAN

EXPO
2025

その他の活動紹介①

地球環境保護 + 循環経済モデルの実現

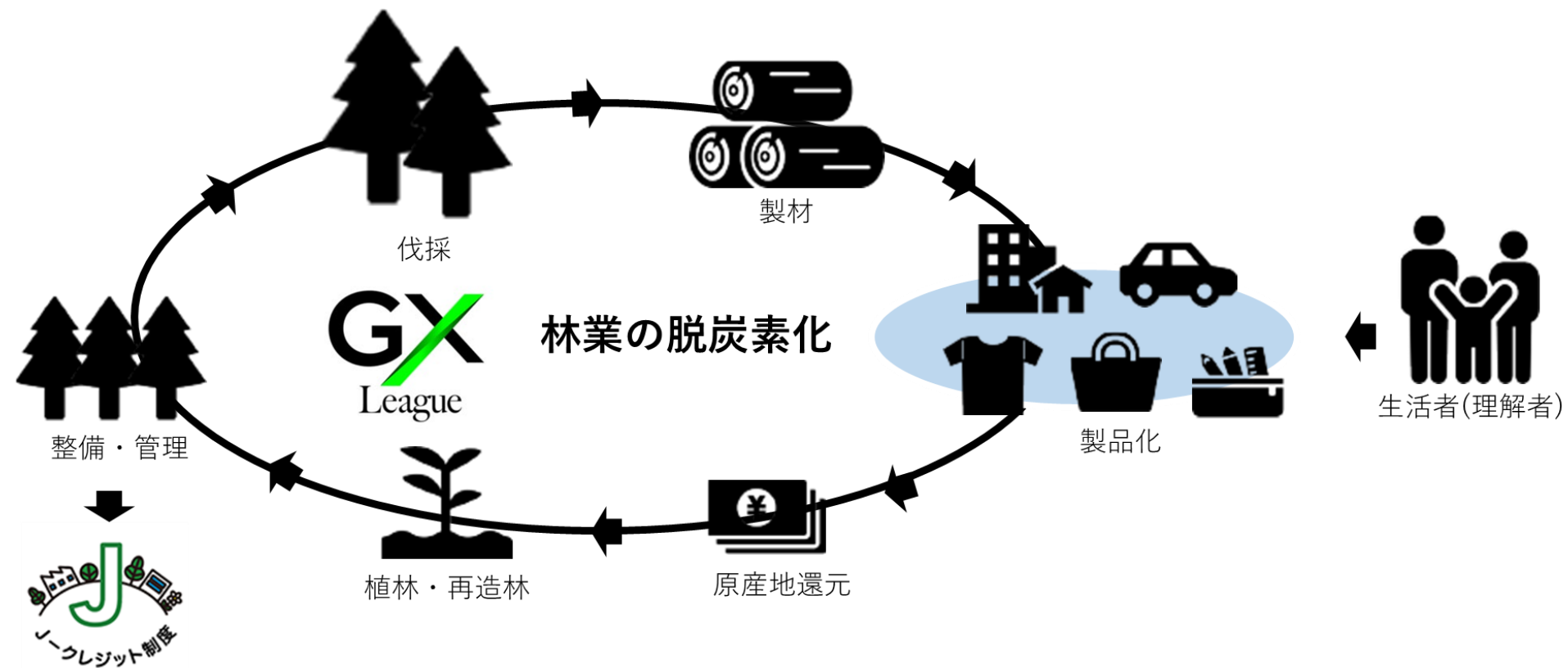
木を原料にすることで循環経済が実現できる



その他の活動紹介②

林業の脱炭素化へ

林業の脱炭素化(ゼロカーボン)を目指しCO2排出量の可視化



Jクレジット制度への取り組み（プロジェクト概要）

組合員所有の私有林を取りまとめ、1つのプロジェクトとして申請

申請費用は誰が負担？

根羽村森林組合

収益は誰のもの？

森林所有者 と 根羽村森林組合

プロジェクト名	長野県 根羽村森林組合による間伐事業を用いた 温室効果ガス吸収プロジェクト ～健全な森林づくりによる地球温暖化防止と持続 可能な山村社会を目指して～
プロジェクト実施者	根羽村森林組合
認証日	2016年12月19日
対象森林所有者	38人
対象面積	56.31 ha
認証を受けたクレジット量	240 t - CO ₂
販売済みクレジット量	231 t - CO ₂ （2023年1月現在）

Jクレジット制度への取り組み（取り組みのきっかけは？）

山を手放したい組合員が増えたから

なぜ？

- 毎年支払わなければならないお金 固定資産税、森林組合の賦課金など
- 収入を得るまでの長い期間 収入があるのは、木を伐採・搬出したときだけ
- 皆伐した後の植林費用 木を販売した収入だけでは足りない？
- 今は根羽村に住んでいない 管理できない、迷惑をかけるのでは？
- 親から相続した組合員 そもそも山に関心が無い、山を持っていることすら知らなかった人も...

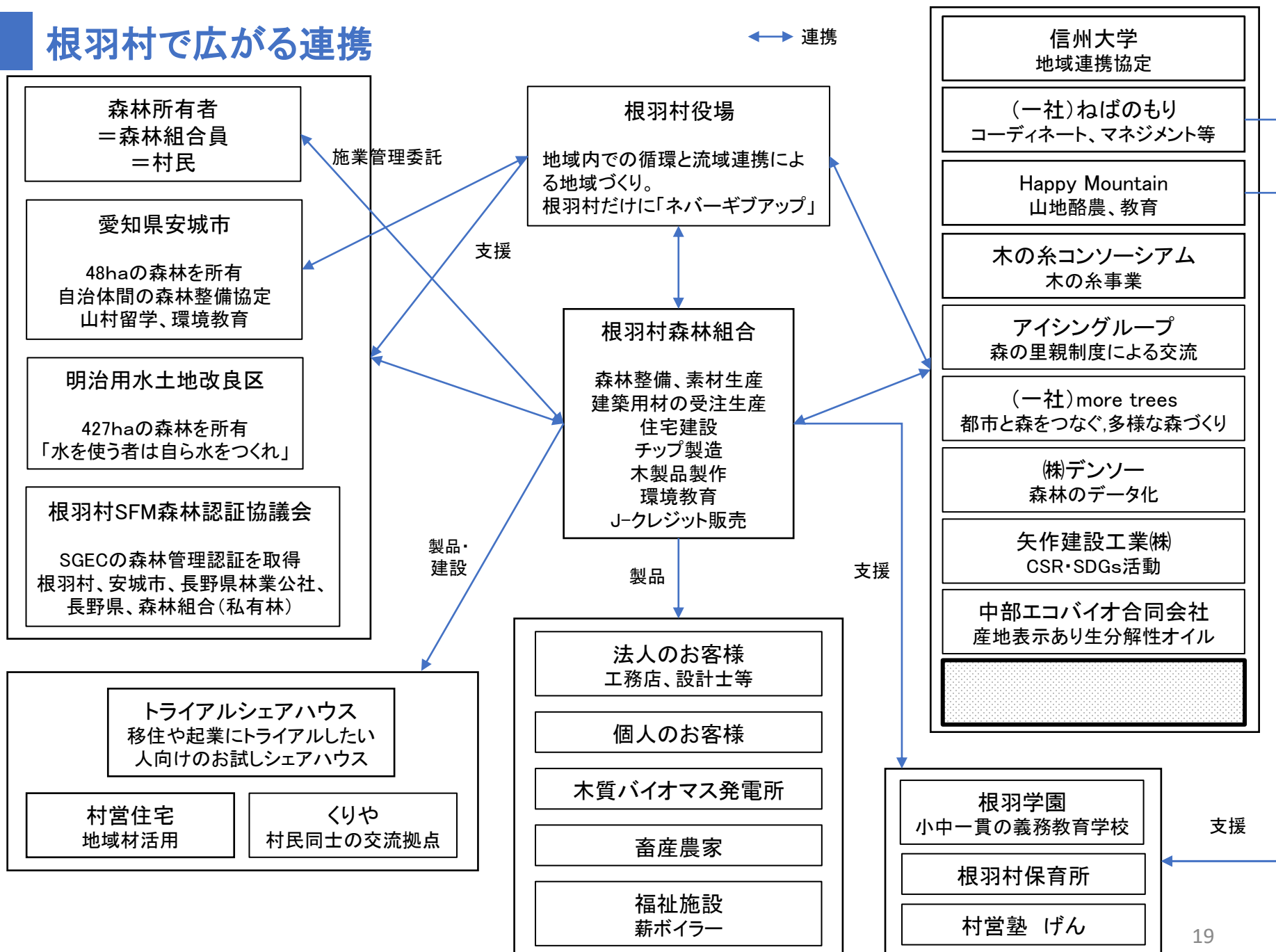


山から定期的な収入を得て、山を持っていて良かったと感じ、
継続的に森林や地域に関わっていて欲しい。

Jクレジット制度への取り組み（今後の展望）

- 村有林でのクレジット発行を計画・支援
- 私有林での2回目のプロジェクト登録を計画
- 下流域を中心とした企業への営業
 - ⇒流域は運命共同体
 - ⇒中長期的なつながりを持ちたい
 - ・プラスアルファの支援を受けられる可能性
 - ・創出者もプラスアルファの価値の提供
- GXリーグ、J4CEへ根羽村森林組合として参画  
 - ⇒カーボンニュートラルに向けて多くの企業が本気で取り組んでいる中で、CO₂の吸収源である森林を最前線で守っている森林組合が、しっかり情報発信をしていく。

根羽村で広がる連携





森林を守る = 地域を守る

2020年度 人口社会増（転出＜転入）

森林をもとにした事業にチャレンジしている方が多い
森林組合がベースとなる部分を支える

オープンな姿勢で多くの人や企業との繋がりをつくり、
持続できる林業や森づくり、地域づくりにチャレンジ。
根羽村だけにネバーギブアップ！あきらめない！



根羽村森林組合
ホームページ



根羽村チャンネル
YouTube